



2025 年 10 月 22 日に開催された

2025 年度第 6 回理事会(定例)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●新社会人リーグの方針決議について

- ・リーグの主旨
 - ① 働きながら高いレベルで競技を続けられる環境の整備(SVL 新編成を踏まえて)
 - ② 審判、指導者、競技会運営担当者の育成の場・機会の提供
 - ③ 都道府県協会の法人化に合わせた事業機会の提供
- ・今後の予定
 - 11 月 20 日に参加希望チームへの説明会を実施予定。
 - 参加チームは、SVL Growth に参戦しないチームが中心になることを想定している。
 - 2 月から参加希望チームの申請を受付開始し、1 月以降 JVA に事務局を立ち上げていく。

【決裁事項】

提案のとおり、新社会人リーグの方針について承認された。

●強化拠点に関する方針決議について

- ・新強化拠点の設置方針の目的
 - ① バレーボール日本代表の更なる強化施設の確保
 - ② 科学的・戦略的強化拠点の構築
 - ③ 次世代育成・発掘のプラットフォームづくり
 - ④ 周辺住民の健康や福祉に貢献できる地域活性化拠点とし、バレーボールを通して人と社会を豊かにする
- ・理事会の方針決議の承認後から正式交渉に入る。そのため、4 名のタスクフォースに、HP 推進/コミュニケーション/企画推進/経理各チームから追加の担当者を加えてプロジェクトを設置する。

【決裁事項】

提案のとおり、強化拠点に関する方針決議について承認された。

●職務権限規程の新設および文書管理規程の改定について

- ・理事と職員の兼務解消、組織体制の見直しにより、事務局規程に記載されていた権限に関する記載を「職務権限規程」として独立させることで分担・権限の整理と参照しやすさの実現を図る。
- ・文書管理規程に記載していた「稟議規程」については、権限に連動するため「職務権限規程」に包括することとした。そのため、文書管理規程内の「稟議規程」に関する記載を「職務権限規程」に変更した。



【決裁事項】

提案のとおり、職務権限規程の新設および文書管理規程の改定について承認された。

●事務局規程の改定について／権限の移行とプロジェクトの発足

- ・職務権限について、第3号議案で職務権限規程を新設したことに伴い、事務局規程から当該箇所（第5章）を削除し、「職務権限規程に準ずる」こととする。
- ・第2号議案において強化拠点の方針決議が承認されたため、当該規程の第2条および第9条に「神戸新トレーニングセンター立ち上げプロジェクト」を追加する。
- ・業務上必要な場合にはアシスタントダイレクター等を置くことができるとしていたが、選任方法が明記されていなかったため、第10条に追記する。
- ・章数の重複があったため、「第5章 雑則」を第6章と修正。

【決裁事項】

提案のとおり、事務局規程の改定について承認された。

●評議員会からの意見書への回答について

- ・評議員から6月の評議員会時に議長から意見書をもらい以下の意見について回答求められた。
 - 一質問1 どのような点(事柄)に、ガバナンスの欠如があると認識されているか。
 - 一質問2 認識された点(事柄)のガバナンス欠如を、どのような方法、手順で改善されるのか。
 - 一質問3 ガバナンス改善の施策は、いつを目途に実施されるのか。

▶質問1への回答

- ・組織的に横ぐしをさして情報をみることができなかった。その中で役職員個々のガバナンス意識が統制されていなかったが、SD ミーティングを有効活用し、組織間で情報を浸透させるための連携体制を整えつつある。
- ・プロジェクトやマルチタスクを増やし、各部署から担当者が参加して各部署に情報を持ち帰ることで知識・情報が流動的に伝達され则认为、体制を構築することを開始している。

▶質問2、質問3への回答

- ・様々な委員会を作って活動している。
- ・啓発・教育は、9月にJSCのオンライン研修を聴講してもらい、新しく理事になった方にも参考になることが多かった。これを皮切りにいろいろと既存の研修や独自の研修を実施していく。
- ・人材強化は、ガバナンス委員会の事務局に、アドバイザーとして、ガバナンスと情報管理の2つを経験している人材を採用できないか活動を開始したいと考えている。ただし、副業前提で考えているため、出勤は週1回程度の想定。経験者からアドバイスもらいながら、業務監査の実施、業務の見える化、業務マニュアルの作成をしていきたい。国際渉外関連もガバナンスに課題があったが担当者を1名採用した。この様な形で人材強化を図りながらガバナンス体制を構築する。



【決裁事項】

提案のとおり、評議員会からの意見書への回答について承認された。

●委員会委員長の選任（社会貢献委員会）

- ・対象委員会：社会貢献委員会
- ・委員長候補：松永敬子 理事
- ・選考理由：他のスポーツで得た経験や知識を我々の社会貢献活動に尽力いただきたい。

【決裁事項】

提案のとおり、委員会委員長の選任について承認された。

●規程類一斉整備における規程の改定

- ・規程の整備を4月時点で読替え実施の件について承認されている。
- ・今回の一斉整備の対象は10規程となっている。対象の大半が読替えとなっている。
- ・条文が追加になっているのが以下の規定
 - ① 定年に関する規程
 - ② 名刺作成・利用規程
 - ③ 謝金規程
 - ④ コンプライアンスホットライン制度運用規程

【決裁事項】

提案のとおり、規定類一斉整備における規程の改定について承認された

●評議員報酬規程の改定案について(評議員会上程案)

- ・評議員の報酬体系について月額報酬から日額報酬への変更。
- ・評議員会からの「他協会の水準と比較した上で報酬委員会に検討を進めてもらいたい」といった意見があったため、25年4月の報酬委員会で報酬体系・金額について確認が行われた。
- ・評議員報酬規程の改定箇所<<追加>>

- ① 第2条3 評議員の報酬は別表1の諸会議に出席したときに支給する。
 - 4 評議員報酬額は日額とする。

- ② 別表1・評議員報酬対象の諸会議と報酬額

会議種別	会議名	報酬額
主要会議	評議員会	20,000 円
重要会議	役員・評議員選定委員会	10,000 円
その他会議	評議員懇談会 等	5,000 円



<<削除>>

第3条 評議員の報酬は、毎月一人あたり 15,000 円を支払うものとする。

2 年 1 回開催する定時評議員会に出席した評議員には、定時評議員会開催月の前項の報酬に加え 20,000 円を支払うものとする。

4 評議員が報酬の全部又は一部につき自己の口座への送金を申し出た場合には、その方法によって支払うことができる。

第10条 この規程の実施に関し必要な事項は代表理事が別に定める。

<<変更>>

第4条 評議員の報酬の計算期間は、当月 1 日から当月末日までとし、翌月 25 日に支給する。

・改定のスケジュール

25 年 11 月 21 日に開催する臨時評議員会に上程する。

【決裁事項】

提案のとおり、評議員報酬規程の改定について承認された

●役員報酬規程の改定／理事会運営規程の改定

・主な変更点

【役員報酬規程】

第6条 業績評価および評価に基づく報酬金額案は報酬委員会から理事会に上程することを追記

第8条3 諸会議の範囲と非常勤役員手当の金額を別表3の通りにすると規定した。

第8条4 別表2（非常勤役員の報酬テーブル）は報酬委員会から理事会に上程するが、別表3の諸会議の範囲変更および対象会議の非常勤役員手当の金額案は別表2の範囲内で業務執行理事会にて協議の上、理事会で決議できるものとした。

【理事会運営規程】

第6条 理事会招集において、代表理事が欠けた時の順位を「副会長→専務理事→業務執行理事」と明記。

第8条 （非常勤役員手当）の条項を削除し、役員報酬規程に移譲

第18条 「この規程の実施に関し必要な事項は代表理事が別に定める」を削除

別表1 非常勤役員手当の諸会議と報酬額を削除し、役員報酬規程に移譲

・改定のスケジュール（施行日について）

理事会運営委規程の施行日は、承認された本日の理事会ではなく、25 年 11 月 21 日の臨時評議員会で役員報酬規程の変更が承認された日とする。

【決裁事項】

提案のとおり、役員報酬規程の改定／理事会運営規程の改定について承認された。



●臨時評議員会の開催目的について

- ・臨時評議員会の目的事項を以下の内容で提案する。
 1. 日 時： 2025 年 11 月 21 日（金） 14：00 ～ 16：00
 2. 場 所： JVA 会議室を開催場所とするオンライン会議
 3. 決議事項
 - （1）評議員報酬規程の改定の件
 - （2）役員の報酬規程の改定の件
 4. 報告事項
 - （1）評議員選定規程の新設案について（理事会承認における最終提案）
 - （2）評議員選定委員会委員（1 名）の選出のお願い（1 月の理事会で選任）
 - （3）新社会人リーグの方針決定について
 - （4）強化拠点に関する方針決定について

【決裁事項】

提案のとおり、臨時評議員会の開催目的について承認された。

●役員賠償責任保険の加入について

- ・代理店経由で相見積もりを行った結果法人外役員と法人に関する補償ともに重要と考え、「東京海上日動社の上限 1 億円（補償対象者：理事・監事）」保険を選択した提案。
- ・契約期間は 1 年で賠償以外の第三者委員会の費用等も保証の対象となるため、万が一に備えて加入をしたい。
- ・補償金額は 1 億円/3 億円/5 億円のプランを比較したが、現在が何もないためスモールスタートで 1 億円のプランとした。

【決裁事項】

提案のとおり、役員賠償責任保険の加入について承認された。

※1 点退任後の補償について確認事項があり、後日結果を伝えることとなった。

●女子日本代表チームへの報奨金支給について

- ・タイで開催された世界選手権にて女子日本代表が 4 位の成績を収めたため、「日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程」の第 4 条に則り、報奨金を支給することを提案。
- ・配分内容
 - 報奨金金額：1,200 万円（選手 900 万円、スタッフ 300 万円）
 - 対象者：選手 14 名、スタッフ 12 名（監督除く）
 - 配分方法：選手は出場数や貢献度により査定して傾斜配分
 - スタッフは均等配分
- ・支給時期
 - 本日承認がおり次第、準備を進めて速やかに支給する。



【決裁事項】

提案のとおり、女子日本代表チームへの報奨金支給について承認された。

●規律規程の新設について

- ・大会中の至急となる処分案件への対応のため、「規律部会」を設けて対応すべく規程の新設の提案。
- ・コンプライアンス委員会の部会として「規律部会」を設けて、大会期間中の至急案件は規律部会で処分ができ、コンプライアンス委員会に報告する。
- ・内容はSVLの規律規程に準じている。
- ・新社会人リーグ等、JVAでリーグ戦を主催するケースがあるのでリーグに関する処分基準が必要。
- ・今年の天皇杯/皇后杯から反映させることを考えていたが、審判規則委員会や競技委員会での議論ができていないため、規定化は1月の理事会と新年度から施行していきたい。ただし、天皇杯・皇后杯については規程案を準用し、対応の中で何か支障があれば、改善策として盛り込んでいく。

【決裁事項】

規律規程の新設決議は見送られた。

ただし、12月に開催される天皇杯・皇后杯での競技中の違反行為については、実行委員会の中で対応し、規程案については、関係者との協議およびその検証も踏まえた運用方針を1月の理事会で提案することについて確認が取られ、賛成18名・反対0名にて承認可決された。

<報告事項>

●2025年度上期運用報告

JVAとして2014年度から資金運用をスタートしている。今年度は基本財産の中の2億2,900万円を資金運用の原資として充てて今運用中である。内訳は7年から20年の長期社債3本に分けている。2025年度の上半期は運用益が、社債の利息で287万円の予定。このまま年間通した場合574万円が運用益を見込んでいる。特定資金は毎年取り崩しもあるため現在社債等の運用は行っておらず短期資金になっている。資産運用結果の推移としては、始めてから11年が経過し、利息の累計で1億5,800万円となっている。満期保有を前提としており、大きな賭けには出てないが、しっかりと運用出来ている。

●2026年度予算について

予算編成がスタートしたばかりのため、1次集計の段階。申請ベースの部分で集計した結果となっている。中期進捗管理委員会からも意見をもらっている通り、予算ありきではなく、優先順位は付け、事業の理想像を念頭に置きつつも、ゼロベースで実施したい事業を全体に挙げてもらっている。そのため、費用面が膨らんでいる。中身には優先順位を基に今後予算調整に入っていくことになる。

今後、各グループと経理チームを中心に調整をして、費用面は予算執行の優先順位や内容精査をしていく。収入面はトップラインについてマーケティングでどこまで収益を上げられるか、見極めていきたい。現時点では2億円の赤字予算となっているが、各グループ内での工夫やHPとしても収益向上になる事業との連携等、次回の理事会に向けて調整していきたい。優先順位があるため現状の希望を精査しつつ、できればトップラインを上げながら、最終的に特定資産の運用も含めて収支均衡での予算スタートを目指す。



ただし、新強化拠点の賃料・運営コストについては収入部分が未確定のため変動要素として残している。今後スポンサー等を探していき、運用の可否を判断していく。次に新社会人リーグについては事務局を JVA の中に構え、事務局運営費、人件費を参加チームから徴収する参加費の範囲内で賄っていく事が前提であるが、現時点ではプラスマイナスが見込めていないため、変動要素としている。最後に人材強化について、今年度から前倒しで実施しているが、引き続き実施していかななくてはならない。

2 次集計は最終系という形で詰めていきたい。全体のイメージとしては希望事業を全部実施するとなると事業規模的には 2 億円程資金が足りない。正確には 6 億円規模の不足となるが内特定資産から 4 億円充当となるため、そのような財源構造も意識して進めていきたい。

●評議員選定規程の新設案

- ・ 9 月 24 日に開催した事前説明会の時に貴重な意見をいただいたため、それを踏まえて条文変更。
- ① 評議員選定委員会の職務の関係上「独立した機関であるべきではないか」と意見があったため明記。
- ② 本規程の改廃については色々と相談をしたが、「評議員の意見を踏まえた上で、理事会で規程を決議する」形としたい。現行の評議員のガイドラインでは、評議員会が会議を招集して過半数の賛成を得て理事会の決議により改廃できることになっているために明記した。
また、評議員を選ぶ内容ではあるが、一般的な基準であることから理事会の決議事項で問題ない旨のアドバイスをもらっている。
- ・ 併せて推薦の中で利益相反の 3 親等以内の確認について、評議員も役員同様に対象者となる。
- ・ スケジュールは 10 月末の評議員懇談会と 11 月 21 日の臨時評議員会で評議員選定規程について議論、意見交換を行い、来年 1 月の定例理事会で評議員選定規程を最終提案し、ガイドラインではなく本規程に基づいて 2026 年の評議員改選に向けて動いていきたい。

●委員会の委員の選任について

特に新たにメンバーが揃ったところについて報告する。主にガバナンス・社会貢献・競技普及に関する部分・技術委員会で一部埋まっていなかったところが着任となった。そのほか天皇杯・皇后杯の実行委員会とジャパンビーチバレーボールツアーの実行委員会が決定した。

●理事の利益相反確認結果について

コンプライアンス委員会では、6 月の理事就任に伴い、3 親等以内の利益相反確認の情報提出に協力いただき、弁護士の先生を中心に確認を行い、問題なかったことを報告する。3 親等という大変な作業にも関わらず、相当細かい情報を丁寧に回答いただき、ご協力に感謝したい。



●コンプライアンス処分決定報告について

■JSPO 公認指導者資格登録保有者の処分決定状況（報告）

対象者情報	都道府県	当時年齢	性別	カテゴリー	通報分類	JVA 通報 受付日 (※2)	JVA 委員会 開催日	JVA→JSPO 提案内容	JSPO 処分決定 通知日	JSPO 決定内容
1 (※1)	宮城県	57歳	男性	小学生	不適切行為	2023/5/6	2023/9/25	資格停止6か月	2024/7/22	資格停止1年 ※但し、JSAA（※3）仲 裁の後、2025/1/9に原 処分が取消⇒2025/1/9 に資格停止6か月で再度 決定。
2	大阪府	27歳	女性	高校	暴力	2023/12/25	2024/6/25	譴責	2025/3/25	資格停止4か月
3	熊本県	29歳	男性	中学校	わいせつ・性的な言動	2024/4/3	2025/1/28	資格停止12か月	2025/6/5	資格停止3年6か月
4	鹿児島	49歳	男性	中学校	暴力	2024/8/6	2025/2/21	厳重注意	2025/8/1	資格停止3か月 ※但し、JSAA仲裁の 後、2025/9/9に厳重注
5	大阪府	43歳	女性	中学校	不適切行為	2024/6/8	2025/5/29	注意	2025/10/6	処分審査に付さない
6 ※5と 同一 の案件	大阪府	39歳	男性	中学校	不適切行為	2024/6/8	2025/5/29	注意	2025/10/6	処分審査に付さない

（※1）本件は過去の理事会で既に報告済であるが、下線部を追加情報として報告。

（※2・3）JVA：公益財団法人日本バレーボール協会、JSPO：公益財団法人日本スポーツ協会、JSAA：公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（スポーツに関するトラブルを公正中立に解決する法務大臣認証紛争解決機関）を表す。

課題になっているコンプライアンス案件の期間は、案件が発覚してから委員会で処理をして裁定が確定するまでの時間の短縮に努めている。ただ、JVA が短縮しても JSPO で時間がかっている。現在 JSPO との調整の中で、JVA が権限移譲をしてもらい最終決定することについては、JVA と JSPO の処分案のレベルに少し差がある点についても協議が必要であると感じている。

JSPO の最終決定のレベル感を JVA コンプライアンス委員会でもレビューしながら我々のレベルもアジャストして、フェアにかつ透明性をもって処分ができるに現在蓄積している最中になる。



■コンプライアンス違反の年度別件数（2025 年度上半期まで）

	①	②	(②')	③	④
	JVA受付件数	内、 JSPO対象件数	内、 JVA対象件数	JSPO処分決定件数	JSPO審議中件数
2021年度 ※2021/4～2022/3	9	8		8	0
2022年度 ※2022/4～2023/1	24	23		21	2
2023年度 ※2023/2～2024/3	93	41	7	9	31
2024年度 ※2024/4～2025/3	98	57	47	13	10
2025年度 ※2025/4～2025/9	51	35	8	4	1

※JVA 調査中・調査取下げ依頼など各案件の事情により、単純に合計数とはならない。

※同じ案件が重複している場合もカウントしている。

※2023 年 2 月より現行の「通報フォーム」運用開始のため、2022 年度/2023 年度を 2023 年 1 月/2 月で区切っている

※2023 年 3 月に「暴力撤廃アクション」を開始。

●日本代表インドア・ビーチの活動報告について

①インドア：

大会名	女子結果	男子結果
VNL	第 4 位(予選:9 勝 3 敗)	第 6 位(予選:8 勝 4 敗)
世界選手権	第 4 位	第 23 位
U21 世界選手権	第 2 位	第 11 位
U19 世界選手権	第 7 位	第 16 位

女子と男子を比較すると、女子は非常に良い成績を残して今シーズンを終えることができた。男子は、U21 や U19 の強化の点で課題が残っている。U19 はインターハイと重複し、良いメンバーを選出できない。U21 は、女子は SVL の選手で構成できるが男子は大学生のためベスト 8 に入る強豪国は約 80 日～90 日程度合宿をする。ただ、日本の U21 は 2 週間足らずの期間になってしまう課題がある。大学連盟と連携を取って今後は進めていく。



女子のシニア代表は、アクバシユ監督の新体制でスタートして多くの選手を選考して、VNL では各週の大会でメンバーを変えて結果を残した。また、世界選手権では最終的にリベロプレイヤーを 3 人入れた編成で参加した。大会直前に佐藤選手が捻挫するなど不安材料があったが、総合力で予選ラウンドを突破して、ファイナルラウンドに進出して強豪国ブラジルにあと 1 点といった試合をするまでになっている。来年のオリンピック予選の最大のライバルは中国になると思う。ただ、ヨーロッパの高さあるチームに対しても結果を残しているのが大いに期待できる状況ではないかと思っている。一方で大型アタッカーの育成という点は、現在秋元選手がドイツリーグにいて、代表オフシーズンの成長をプラスに考えながらチーム編成ができればと思っている。

男子シニア代表は、こちらも新体制になったが、SVL の監督をやっていた関係で、実際始動できたのが 6 月からということになった。経験のある監督のため大きな要因にはなっていないと思うが、パリ五輪の中心選手の休養を優先した結果、世界選手権に向けてチームを組んでから約 1 カ月程度しかなかった。あとは練習強度について、パリまでと比較するとかなり上がっている。練習強度とボリュームを上げた中で活動したため、その中でのコンディション調整が大きな課題となったと思う。ただ、練習強度を下げるのではなく、高い練習強度の中でいかにコンディションを作れるかということが、パリ五輪以上の成績を残すことにつながると考えている。

②ビーチ：

中期経営計画の自己分析でも記載したが、男子の強化が急務となっている。それを踏まえて強化指定選手の中にインドアのビーチのレベルが高い選手を選出して国際大会に派遣して試合に出場してもらっている。選出した 2 選手（水町選手・黒澤選手）は、普段ビーチの練習はしていない。ただ、ビーチバレーの全日本選手権大会男子で準優勝だった。また、水町選手は国内ツアーの北海道のグランドスラム大会という一番大きなトップ選手がでる大会で優勝した。インドアのポテンシャルが高い選手であり、順応性も非常に高い選手で、身長は高くないがインドアでも活躍していて新人賞を取るような選手でもある。技術的に全く問題ない選手であり、風や砂といった自然環境の中でも非常に能力を発揮できる選手であるため、ロス五輪でも男子代表として期待している選手の 1 人。黒澤選手は海外の選手と組んで国内ツアーも参加している。大学を卒業した後もビーチを続けられる環境ができた。

今後二刀流選手を多く輩出し、評価することが男子強化の一番の近道だと考えている。今年から SVL 事業としてシーズンオフの 5 月中旬から 9 月中旬までの期間にビーチバレーの強化合宿をやらないか各チームに問いかけを始めた。今年は 3 つ実施して、女子が多かったが PFU は強化合宿もしてプロツアーにも出場させるなど非常に効果的だったと感じている。



大会	順位	選手名
■AVCアジアツアー		
サミラ大会(タイ)	優勝	松本 恋・松本 穂
平潭島(中国)	2 位	丸山 紗季・石井 美樹
ピンドン(台湾)	3 位	柴麻美・村上礼華
■FIVBプロツアー Future		
ソンクラ(タイ)	2 位	松本 恋・松本 穂
ヌバリ(フィリピン)	2 位	伊藤 桜・沢目 萌
啓東(中国)	優勝	松本 恋・松本 穂
釜山(韓国)	優勝	松本 恋・松本 穂
■FIVBプロツアー Elite		
オストラバ(チェコ)	25位	柴麻美・村上礼華
モントリオール(カナダ)	21位	柴麻美・村上礼華
ハンプルグ(ドイツ)	19位	柴麻美・村上礼華
ニューポートビーチ(アメリカ)	21位	柴麻美・村上礼華
性別	順位	選手名
■U21アジア選手権大会		
男子	17位	タイ・ローイェット 源田アシュリー(嘉悦大学) 高内雄心(日本体育大学)
	17位	柏谷玲央(天理大学) 柏木陸歩(鹿屋高校)
女子	4 位	宇都木乃愛(産業能率大学) 森愛唯(トヨタ自動車株式会社)
	9 位	森川仁湖(鹿屋体育大学) 矢田和香(ヴィクトリーナ姫路)
■ワールドユニバーシティゲームズ		
男子	19位	ドイツ・デュイスブルグ 水町泰杜(トヨタ自動車株式会社) 黒澤孝太(明治大学)
女子	9位	宇都木乃愛(産業能率大学) 森川仁湖(鹿屋体育大学)
■U18世界選手権大会		
女子	17位	カタール・ドーハ 宇都宮萌里(西条高校) 沢野詩多(日本航空石川高校)
■U21世界選手権大会		
女子	本戦	メキシコ・プエブラ 宇都木乃愛(産業能率大学) 森愛唯(トヨタ自動車株式会社)
	予選	森川仁湖(鹿屋体育大学) 矢田和香(ヴィクトリーナ姫路)
■FIVB世界選手権大会		
女子		柴麻美(株式会社帝国データバンク) 村上礼華(株式会社ダイキアクシス)

以上